

令和6年度第1回取手市立図書館協議会会議録

- 1 開催日時 令和6年7月26日（金）午前10時00分
- 2 開催場所 取手図書館3階読書活動室
- 3 出席者
（委員）北原会長、廣瀬副会長、片根委員、阿部委員、小林委員
（事務局）石塚教育長、井橋教育部長、樋口館長（取手図書館）、
蛭原館長（ふじしろ図書館）、渡辺課長補佐（取手図書館）、
岩瀬係長（ふじしろ図書館）、近藤係長（取手図書館）、
田中主幹（取手図書館）
- 4 議 事
（1）令和5年度主要事業実績及び利用状況の報告について
（2）令和6年度事業計画及び予算について
（3）その他
- 5 傍 聴 人 0名
- 6 会議資料
（1）会議次第
（2）令和6年度取手市立図書館協議会委員名簿
（3）令和6年度第1回取手市立図書館協議会席次表
（4）協議会委員からの事前質問回答票
（5）令和5年度図書館利用者アンケート結果
（6）広報とりで6月1日号の一面（写）
（7）「こんな図書館（複合公共施設）がいいな」アンケート用紙
（8）令和6年度取手市立図書館要覧

【開会】

《事務局》 本日の会議次第において、会長及び副会長の選出は「取手市立図書館協議会設置条例」第4条第1項により、委員の任期は2年、同条例第5条第2項に会長及び副会長は委員の互選によって定める。また同条例第6条第3項に会議の議長は会長が務めるとあり、会長が選出されるまで、事務局で会議を進行する。

本日の会議出席者は5名、在任委員の過半数以上の出席により会議は成立。

《事務局》 会議次第 5、会長及び副会長の選出方法について諮り
会長に北原委員、副会長に廣瀬委員を選出（互選）
議事進行は、「取手市立図書館協議会設置条例」第 6 条第 3 項により、
議長は会長による。

《議長》 当会議の会議録作成方法の確認及び会議の公開、非公開について諮る。

《事務局》 会議録は、当協議会における各委員からの発言内容を要約し、発言委員の氏名は省略する。なお、会議録作成のため当会議を録音し、会議録作成後は消去する。会議録は会議録署名人の署名をもって確定する。

《議長》 本会議の公開及び傍聴について、当会議は原則公開となる。
会議録署名人に片根委員を指名。

《議長》 議事（1）令和 5 年度主要事業実績及び利用状況の報告（2）令和 6 年度事業計画及び予算について。事前質問に対する回答を求める。

《事務局》 （1）取手市は近隣に比べても高齢化率が高く、利用率が一番高い年齢層が 70 代。近隣市町村においても、人口割合の高い高齢者層の占める割合が高い傾向にある。60 才以上者の割合を近隣と比較すると、取手市が 55%と一番高い。高齢化率が低めの守谷市、神栖市では 40 代の貸出者の割合が一番多く、27.5%、18.7%だった。
（2）取手図書館、ふじしろ図書館、戸頭公民館図書室は、他の公民館と比較して、児童書の蔵書数が多く、常にたくさんの親子が訪れ絵本や児童書の貸出がある。各公民館へ予約図書の配送を行っているが、子どもたちも、「大きな図書館に行きたい」「実際に見て本を選びたい」ということではないかと推測する。

質問 2 と 3 を同時に回答。

学校司書が先生方との連携を強化しており、調べ学習等、授業で図書が活用されている。白山小は 1、2 年生、宮和田小、六郷小は全学年が授業時間内に定期的に図書室を利用でき、戸頭小では古い本を整理し、本の表紙を見せて展示している。多彩なイベント「プラスワンチケット（もう一冊借りることが出来るチケット）」が戸頭小と宮和田小で行われ、戸頭小と六郷小では「しおり」のプレゼントを実施。藤代中も利用が伸びており、「福 BOOK」や、おすすめ本の紹介を書いてもらい展示する「押し BOOK」などのイベントを行っている。

質問 3、桜が丘小では、学校司書の異動、レイアウト変更の作業、シス

テム不具合が重なったことで貸出冊数の減少となった。

質問 4、令和 5 年度は小中学校の卒業生を含む長期未利用者の登録データを削除したため、全体として約 1 万件の減少。新規登録者数は令和 4 年度 1,344 件、令和 5 年度は 2,261 件となった。

質問 5、入館者数の相違について、ふじしろ図書館は、貸出者数、貸出冊数ともに、取手図書館をやや下回っているが、視聴覚資料、CD、DVD の充実や、児童向けイベントが多いことから、入館者数が取手図書館よりも多いのではないかと考えられる。

なお、令和 4 年度、ふじしろ図書館は空調設備改修工事のため、約 1 か月間休館しており、入館者数にも影響したと考えられる。

（2）令和 6 年度事業計画及び予算について

質問 6、学校司書が様々な工夫をして図書室づくりに努力しており、さらなる周知として、「ほんくる」の活用、「身近な公民館で出来る貸出・返却サービス」を広報とりでや教育委員会ホームページに掲載している。

質問 7、いずれの自治体も、50 歳以上の利用割合が小中高校生の利用割合を上回る。今後は、市内関係部署や図書館関係団体等とも連携し、こども読書週間や学校の長期休み中などの機会を捉えたイベントの拡大、魅力的な図書の選書、配架、展示に努めていく。

質問 8「がん」という少し重いテーマでの講座だったが、子どもから高齢者まで幅広い年代の方に参加していただいた。

《議 長》 （3）その他の質問事項について事務局より説明を求める。

《事務局》 質問 9、前回 3 月 26 日に都市整備部より報告のあった「図書館等複合公共施設整備方針」の内容を、詳しく説明するための基本構想の策定作業が進んでいる。今後、市民や図書館利用者等のご意見を広く聴取していくため、基本構想(案)に対するパブリックコメントの実施や、基本計画（基本構想策定後に策定予定）の検討段階における市民等に対するアンケート調査等を行っていく予定。

図書館としては、ボランティア団体の方々や、他市町村の図書館、図書館関連事業者等にご意見を伺うなどして、魅力的かつ利便性の高い新図書館の整備に向け、都市整備部と連携を密にしていく。7 月からは都市整備部と共同で、利用者様向けに「こんな図書館（複合施設）がいいな」

というアンケートを開始している。「素敵な図書館が出来ることを楽しみにしている」といった、新図書館に期待する声をいただいている。

《議 長》 上記の回答に対し、委員に意見・質問を求める。

＜特になし＞

《事務局》 令和５年度に実施した取手図書館、ふじしろ図書館の利用者アンケートの調査結果を報告する。

利用者アンケートは、図書館サービス向上、利用者様の生の声をいただきたいという趣旨で実施したもの。

期間は、令和６年１月１３日（火）から１月２８日（日）まで取手図書館とふじしろ図書館で実施。アンケート回答者数はふじしろ図書館が３４６人、取手図書館では４２８人。

《議 長》 委員に意見・質問を求める。

《委 員》 日本の国力の低下のひとつは本を読まなくなったこと。スマホの知識だけでは不十分。せっかく小学校低学年の時には本に関心を持っているのに、成長するとそれが薄くなるのはもったいない。

《教育長》 誰かが解決してくれる、検索エンジンで調べればすぐに答えてくれる等、子どもたちが自分事として考えなくなっていることに非常に危機感を持っている。さらに、危機感を持っているのが、チャットＧＰＴをはじめとする生成ＡＩで、例えば「読書感想文」「ごん狐」８００字と打てば読書感想文ができる。

そうなってくると、やはり小さい頃から自分事として考えさせることが必要で、自分も小学校勤務時にＳＤＧｓをテーマに考えさせ続けた。カーボンニュートラルについて他人事ではなく、子どもたちに尋ねれば、子どもはちゃんと考えて答えるが、尋ねる場がない。読書環境の話も出たが、親が子どもに対して、どう思い、どう考え、家庭内、学校内での投げかけがとても大事だ。答えを探るときに、簡単に安易に検索するＡＩに尋ねるのではなく、文字であったり人の意見を聞くなど、我々人類がやってきたことを大事にしなければならない。

《委 員》 本の世界に子どもたちを留められる方法がないか日々思っている。

《議 長》 ほかの意見・質問を委員に求める。

《委員》 図書館はアナログでいいと思う。24 時間しかない中で、何を詰め込み、利便性と時短、どれくらい押し込めるか、大分凌駕されてしまって寂しく感じる。だからこそ、逆に読み聞かせが必要、その生の声が大事、手のぬくもり、本のページをめくる音が、少し形勢不利というか、図書館という本を並べておく場所が不利になっていると感じている。50 代以上の方は、図書館に本が並んでいることで安心して来られます。高校生は検索技術がないと、今は生きていけない。今の過渡期の図書館は良い塩梅が難しいと感じて非常に悩んでいる。

《委員》 本屋さんも閉店しているし、紙媒体としての本は、これからどうなるか心配だ。

《委員》 今度、駅に図書館が出来ることに非常に興味がある。この複合施設の中に話が出ているように、どんなコンセプトで図書館を作るのかが重要で、贅沢なものを作って、他の図書館にない体験が出来るような、差別感を生み出さないと残れない。図書館を存続・発展させるか、潰すのか、消えたほうがいいのか、残すべきか、どんなふうに残すべきかを考えないといけない。

《委員》 日本全国どこの公立図書館も書籍の貸し出しだけでは残らないと思う。取手市が複合施設に図書館という方向性は全く正しい。

もう一つは、せっかくの駅前なのだから、箱をつくるのであれば、本を読む以外だがそれと関係する、魅力ある箱をつくらないと。通勤で図書館の本を読んでいる姿も見かけるが、40 代よりも若い方で本を読んでいる方はあまり見かけない。そこは我々も何か考えていかなければならない。

《委員》 図書館にたくさん人が来てくれるよう、子どもだけではなく中高年の方にも楽しんでいただける催しを企画していかなければならない。

《議長》 新たな魅力を作ることが重要だということですね。

《委員》 高齢者は本が並んでるだけで、今の図書館の活動で十分満足している。それが 40 代 50 代がリミットなのか、何もやらなくても結局来てくれます。小中高学生は、今のところ何をやっても来ない。読書に結びつく工夫を考えて、ブックスタート事業、読み聞かせが大事なんじゃないか。

《委員》 ちいさい人のおはなし会では、お父さんが一緒に聞いてくれて、ブッ

クスタートはお二人で絵本を真剣に選んでいる。ブックスタート、おはなし会、小中学生までは読んでいても、高校生になったら全然読まなくなり、また大人になったら、昔読んだ自分の本に帰って来たりする。どうやったら途切れることなく、本への関心を持ち続けられるのかを考えなければならない。

《委 員》 1歳2歳からの読み聞かせは、感受性だけでなく言語発達の上でも非常に重要なこと。さらに社会人や部活で忙しい中高生の読書が課題でしょうね。そこが複合施設でいいのかどうかということもある。

《委 員》 県立図書館で移動博物館を一ヶ月程行った。
わざわざ博物館に行かなくても県立図書館に行けば動物、地学、植物などに関する本があって、それを見たお子さんたちが関心を持ってまた調べたくなる。何かに興味関心を抱いてもらうことに結びつく。

《議 長》 何か調べようって思わせる仕掛けは重要だ。
いったん進行を事務局にお返しする。

《事務局》 ありがとうございました。

午前10時44分閉会